

| エキシビジョン | 【ミライク若者会議】

U-40と考える かけがえのない“わたし”を生きる

■日時：11月15日(日) 10:00~13:00



<パネラー>

水野 翔太

名古屋わかもの会議
創設者／総合統括

晝田 浩一郎

株式会社官民連携事業研究所
チーフマネージャー

<グラフィックレコーディング>

田中 恵一

介護医療グラレコグループむす部東海

<講演者・パネラー>

山本 恵子

NHK名古屋放送局報道部副部長

松岡 宗嗣

一般社団法人fair代表理事

<モデラー>

矢上 清乃

学び舎mom株式会社代表取締役

<進行・アシスタント>

廣田 彩友美

株式会社デンソー

加藤 裕子

株式会社キャッチネットワーク

大倉 昌子

NPO法人ママライフバランス副理事

報告要旨

報告：廣田 彩友美（進行／アシスタント）

1. 松岡 宗嗣氏 「男女平等とLGBTは別問題？」

LGBT当事者の悩みも女性が感じる男女格差も「マイノリティであること」に起因することが多く、根本は同じであると事例を示しながら提示いただいた。一方で、男性で同性愛者であるご自身の経験を踏まえ、賃金格差等まだまだ男女という観点で解消すべき問題も多いことを共有いただいた。その上で、法律上の性別だけでなく、性自認、性的指向や性表現が人によって異なるため、「性のありかたは男・女だけでなく、グラデーションのように多様である」ことを説明いただき、マイノリティが抱える問題の解決にあたっては、その問題がどの枠組みで起こっているのかを正確にとらえることが必要だと提言いただいた。

2. 山本 恵子氏 「『それって問題？』身の回りの“ジェンダーバランス”ニュースの現場から」

さまざまな調査結果のファクトを示しながら、ジェンダーバランスに偏りがある際に起こる影響について共有いただいた。

まず、日本のジェンダーギャップ指数の低さや、管理職に占める女性の割合の低さ、大学の専攻ごとの男女比を共有いただいた。次に、“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”という考えに6割以上の方が反対しているという最新の全国意識調査結果の共有や、英BBCテレビにおいて「50:50チャレンジ」という、アナウンサーやキャスターのみならず、コメンテーターや解説員を含めたすべての出演者の男女比を50:50にするという活動が始まっていることを紹介いただいた。最後に、男だから、女だからという価値観を押し付けるのではなく、自分らしく生きることがますます重要になってきているというメッセージをいただいた。

3. パネルディスカッション 「かけがえのない“わたし”を生きるために」

U-40世代(30歳代以下)を中心とした社会人パネラーによるディスカッションを実施した。

各パネラーが「かけがえのない“わたし”」として生きるために大切にしていることや、生活の中でジェンダーギャップを感じる場面を共有して、そのギャップに対してどんなアクションを起こしているか、起こせそうかについて意見交換を実施した。

パネラーはそれぞれの立場でジェンダーギャップやアンコンシャス・バイアスに直面しているが、「当事者が声をあげることで周囲に伝播していく」といった経験談や、例えばLGBTの問題解決に向けては、当事者でなくても彼らを理解し支援する「ALLY(アライ)」という人々の存在が重要であるという事例が共有された。

また、ジェンダーに対する考え方が世代によって大きく異なる傾向がある、という話題では、「かつて天動説が信じられていた時代に、地動説が主流に置き換わったいちばんの理由は、古い考えを持つ世代が全員亡くなったからというエピソードがある。このように、待っていればいずれ今の若い世代の考え方が主流になるという考え方もある。一方で、現在困っている人もたくさんいるので、絶滅を待たなくても下の世代の考え方が広がるよう、一人ひとりが小さな行動を積み重ねて、時計の針を早く進めることが大事ではないか」という意見があった。

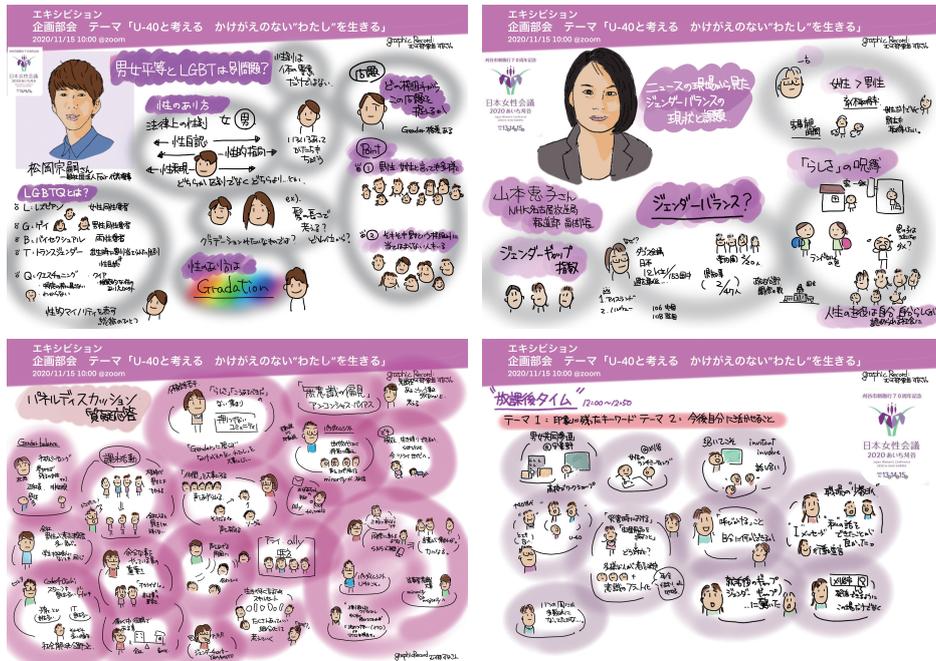
また、U-40世代にとっては古いと感じるジェンダーに対する考え方を持っている方についても、個人の責任があるわけではなく、時代背景や教育の影響を大きく受けてその考え方が形成されているのではないかという意見があった。それに対し、対立構造を作るのではなく、お互いがお互いのことを理解しようとする姿勢から対話が生まれるのではという意見が交わされた。

このように、今を生きる世代が、自分たちの想いや次の世代に向けてできることを共有できる機会となった。

4. 放課後タイム(参加者同士の感想の共有)

オンラインだと参加者間の意見交換や感想の共有が実施しづらく、学びが薄くなってしまわないかという企画チームの問題意識を背景に、参加者に対して感想共有のための放課後タイムを開催した。Zoomのブレイクアウトセッション機能を活用し、参加者とパネラーを5人程度のチームに分け、感想の共有や、自分が感じるジェンダーギャップや悩みについて意見交換を実施した。

最後は参加者全員で感想を共有する場を設け、「かけがえのない“わたし”を生きるために、”わたしは〇〇する“という、自分を主語にしたメッセージを発信していきたい」という意見や、「この場だけでなく、刈谷市でこのような議論をしたということをSNS等で発信し、次の活動へ繋げていきたい」といった意見が発表された。



【図】 グラフィックレコーディングによるまとめ

●企画メンバー

村井 弘二 安藤もも香 石川 裕高 嬉野 剛士 大倉 昌子 太田 泰雅 加藤 裕子 柴田さくら
白松 俊 情家 智也 田中 恵一 中島 祥那 南谷 真 長谷川 滉 樋口 大河 晝田浩一郎
廣田彩友美 矢上 清乃